

5 デジタルプラットフォーム

デジタルプラットフォームは、インターネット上で多様な区民の意見を集め、議論を集約し、政策に結び付けていくことで参加型のデジタル民主主義を実現することを目的として実施しています。

プラットフォーム：品川区版 Decidim(デシディム)

【愛称】しながわオープントーク(しなトーク)

特徴・機能：進行中のテーマについて、自分の考えを書き込むことができる他、誰かの意見に「いいね！」を押したり、自分の意見をコメントしたり、リアクションすることもできます。また、関連資料や議論の過程、取り組みの進捗を閲覧することで、議論の流れを把握し、理解を深めることができます。

(令和 7 年度)

令和 7 年度は、2 つのテーマについて、意見募集を行いました。

1. テーマ：「しながわ防災区民憲章をつくろう」

期間：令和 7 年 9 月 1 日(月)～令和 7 年 11 月 12 日(水)

設問：3 項目(延べ 362 投稿)※各防災訓練等での意見含む

- (1) 日頃から防災に対して心がけていることは何ですか？
- (2) 災害時に地域や周囲の人とどのように助け合えると良いと思いますか？
- (3) しながわ防災区民憲章を次世代に継承し、広めていくために

【ご意見の概要】

「みんなの声をひと目で。キーワードマップ」

設問(1)～(3)で寄せられたご意見の中で、たくさん登場する言葉ほど、大きく表示しています。



各設問で寄せられたご意見を分析した結果、区民意識に下記の特徴が見られました。

設問(1)「モノの備え」は一定程度進んでいる一方、「情報・行動計画」「人との関係づくり」というソフト面の備えが重要であることが、特に有識者や若者の視点から強く示されました。

設問(3)憲章の普及には、「短く・覚えやすく」「楽しく触れ続けられる形」であることが重要であり、そのためには学校教育・エンタメ・SNS・日常の生活動線を組み合わせた多層的なアプローチが求められています。

(2)あなたの声を品川区へ伝えるために何が必要でしょう？

設問(1)で寄せられたご意見の中で、たくさん登場する言葉ほど、大きく表示しています。



で寄せられたご意見を分析した結果、大きく5つに分類されました。

子育て・共働き層からは、2LDK 以上の物件不足や価格高騰への懸念。

罰則強化やパトロール徹底など、実効性のある対策への要望。

分類③：【社会包摂】制度の隙間を埋める多様性とコミュニティ

主な意見：独身者や若年層が利用しやすい居場所や相談窓口の必要性。

多様な生き方を前提とした支援のあり方。

分類④：【モビリティ】ストレスフリーな「横移動」

主な意見：南大井～大井町間など、特定の生活動線におけるバス路線の維持・拡充。

ベビーカー利用時等の歩きやすさ、休憩用ベンチの設置。

分類⑤：【行政信頼】「自分事」として向き合う行政サービスの進化

主な意見：柔軟で迅速な対応（民間サービスレベルの UX）への期待。

区の魅力を若者自身が発信する仕組みづくり。

設問(2)「あなたの声を品川区へ伝えるために何が必要でしょう？」

で寄せられたご意見を分析した結果、以下の3点が重視されていました。

- ① デジタル(手段)：身近で手間が少ない SNS (LINE、X、Instagram) や Google フォーム等の活用希望。
- ② インセンティブ(動機)：ポイント付与などのメリットに加え、「意見が読まれた」「反映された」というフィードバック自体が参加意欲につながる。
- ③ タッチポイント(機会)：転入時や通学先など、生活動線の中での能動的なアプローチがタッチポイントになりうることの示唆が含まれる。